志賀原発事故を想定した防災訓練

これで本当に、全員が避難できるのか

住民参加は260人

未参加地区もまだ31

5%

でさえ、

ごく限られた住民しか参加しない訓

住民と氷見市の負担は甚大です。

自治体でも訓練が必

11月定例 11/27~12/13

ひづめ弘子県議が参加・視察

11月定例県議会でひづめ県議は、決算特別委員会総括質疑と経営企 画委員会で質問。12月12日の委員会では、志賀原発事故を想定した原子 力防災訓練について取り上げました。



志賀原発から30キロ圏内、氷見市1.6万人 一次集合場所と避難ルート

地域生活支援拠点の整備

見書が、全会一致で採択されました。

どを求めています。

を求める意見書

県障害者(児)団体連絡協議会からの請願を、共産、社民、 県民クラブの3議員が紹介者となって提出。これに応えた意

障害者の社会的自立・支援のため、国に入所施設・通所

施設や、入所機能を備えた地域生活拠点施設の整備促進な

全会一致で採択

(富山県原子力防災ハンドブックより)

障害者・児のための

石川県からの避難者を 発 事故 が起きれば当然、石川 想定した訓練が必要

集合場所に集まった住民は260 1・6万人。し .練に一度も参加していない地区さえ、 間に合うのでしょうか。これまで6 ・5%)残されていることも、 かし今回の訓練で、 む市 入(対象 5 で 6 回 の 事 故 の 民

12/13

最終日

県から

と訓練が必要だと述べました。 「域連合が広域避難ガイドラインを作

震災から6

け

で実施され が、11 月6 が、26 調練

原発をなくせば

避難訓練は必要な

る県原子力

回目とな

を働き

負担も大「自治体の「自治体の」の努力し 周辺の断層が少なくとも25本

知事政策局長は「毎年実効性

国の原子力規制委員会は、志賀原発 の原子炉直下に活断層の存在が「否定 できない」と指摘。その他、原発周辺に 少なくとも25本の断層があること も、明らかになっています。再稼働は 断念し、自然エネルギーへの転換で、 火力発電も減らすべきです。



氷見市の皆さんと訓練を視察(北部中学校)

35人学級の推進など 教育条件の整備を求める請願 -部分採択に―

新日本婦人の会、CO・OPとやま、教職員組合などが参加 する「ゆきとどいた教育を求める富山の会」からの請願。今年



11/29 稗苗議長に請願を提出 (ひづめ県議が紹介議員として同席)

えて提出されました。 35人学級などの7項 目は自民党などの反対 で不採択に。給付制奨 学金創設を含む9項目

も11,186名の署名を添

は、全会一致で採択さ れました。

再稼働は断念を



日本共産党 2018年1月

ひづめ 弘子 県議会報告 No. 57

発行/日本共産党富山県議団 〒930-0982 富山市荒川2丁目24-12 電話(076)432-8383 FAX(076)442-1220 Eメール/hiroko.jcp@sand.ocn.ne.jp



●今年が皆さまにとって、よい年でありますように。